竜丘時報

長野縣下伊那郡竜丘村大字時又三三七
編輯兼發行印刷人　沖田一郎
長野縣飯田市大字飯田六七六
印刷所　信濃產業新報社
發行所　竜丘青年會
代表者　下平三郎

論壇

朝陽燦として東海に昇り千秋儼たる大和島根に映發するところ國威八紘に洽き皇紀二千六百年の新春を迎へ、恭しく天壤と共に窮り無き、聖壽の萬歳を壽ぎ奉り更に武勳赫々たる皇軍將士の勞苦を感謝し併せて武運長久を祈ると共に我が竜丘村の洋々たる前途を祝福する次第であります。

惟ふに暴支膺懲の師は茲に四年常勝の偉容を支那全土に進め以て曠古の戰果を擧げ東亞五億の民族をして克く我が正義に信倚して眞に適歸するに其の處を得しめたのでありまして偏に　列聖の神助と、至尊の御稜威の下皇軍の忠武幾多將兵の殉忠に賴るものといたすべく吾等の衷心感謝感激措かざる次第であります。

光輝ある歴史を持つ我竜丘時報も茲に星霜實に十年其の間各方面の替助と先輩編輯子の愛村的至誠に依て幾多の難關障壁宇餘曲折を克服し純正適確なる村の有保證新聞紙として其の役割を保持し、茲に輝かしき第十年度の初刊を發行するに至りしは御同慶の至りである。時報がより良き村の建設として僞瞞なき村姿態の適確な然も着實な報導機關の使命を固守すべく、我には純眞なる青年の立場から一切の村事象に對し純正なる環境の内に在つて正しき主張と編輯とに依つて着實なる報導使命に邁進せんとし、而して明るき村、住み良き村の建設に向つて當局の情報を着實に傳達するは勿論、田園より、戰線より、其の他あらゆる方面の事象を忌憚なく編輯して報導の適確と言論の穩健適正に念願に鋭意之れが任務遂行に努力に傾倒致し健全なる村文化の爲に寄與せんとす。

殊に皇道宣布大陸征野に銃執る村出身勇士の慰問紙に或は村外の傳達に際しては愈々時報の持つ使命も累加の至りである。茲に於て我等は責務を感知し、良く時報の村的地位を認識し、恒に僞瞞なき報導に依り現下國民精神總動員の具顯と長期戰下銃後の護り時艱の克服に、以て擧村的實を擧げるべく之が啓蒙機關の軌道に邁進せんとす。

年頭の辭

代田市郎

興亞聖戰第四年茲に光輝ある紀元二千六百年の新春を迎ふるに當り謹みて　聖壽の無窮を壽ぎ奉る事は洵に感激に堪へない。

惟ふに支那事變は既に二年有半の歳月を閲せるに係はらず忠勇無比なる我第一線の將兵は士氣愈々旺盛百戰百勝戰史に比類なき赫々たる戰果を收め銃後國民また能く之に呼應し興亞の大業達成に邁進し來たつた事は同慶に堪へ無い所で有る。

然しながら支那事變の徹底的解決は前途尚遼遠なるものが有り近く支那中央新政權の樹立を見るべしと雖之を以て事變終熄近しと早斷するものあらんか國家總合戰力の低下と精神の弛緩を來し憂ふべき結果を招來するに至るは火を睹るより瞭で有る。一方歐洲の戰雲は一層複雜多岐なるものが有り今後列强の日本に加へられんとする各種重壓は俄に逆睹すべからざるものがある飜つて地方情勢を回顧するに極めて多端なるものが有る。

糸價は躍進に躍進を續け外貨獲得には頗る好調であるが一面物資の統制に依り農民の必要品たる米穀肥料農機具等圓滑なる配給を欠き其前途憂ふべきものが有る。然し尚我等は米麥繭の增產計畫を進めねばならぬ。

東亞の新秩序建設に邁進すべく我國民は滿洲の開發蒙疆の指導友邦支那の誘掖等悉く農事に重点を置かねばならぬ。農村が戰線に强兵を供給し軍需工業に優秀なる職工を提供し食糧の確保に輸出農產物の增產に貯金の勵行に農村の重要性を誰か認識せずにおられやうか。

此時に當り我等農村民は自肅自制各自の任務を遂行し人的物的精神的源泉の枯渴を防ぎ誓つて護國の大任を全ふせん事を期する次第である。

敬愛なる村民に切望す

竜丘村軍友會長　前澤玉吉

光輝ある紀元二千六百年の新春を迎へ奉祝する日本國民は感激此上なき事と存じます。

遙に東天を拜して聖壽の無窮を壽ぎ奉り、御隆昌を御祈り致しますと共に　聖恩の尊さを感謝して止まない次第であります。

惟ふに時局は益々重大を加へ興亞建設の偉業達成は、未だ途上にして日本國民に課されたる使命は愈々重且大にして前途には幾多艱難が横はつて居る事は申す迄もありません然れば之難局を克服し、興亞の大業達成を助長するには、吾々鄉土にある者は擧村一致層一層の緊張の下に銃後の責務を完徹せねばならぬと痛感致して居ります。

爰に於て事變勃發當初より今日迄での應召將士の見送り、英靈の奉迎、歸還將兵の觀迎等に付て、二ヶ年有半の經過を思ふ時、最初數回の村民の熱烈にして盛大なる送迎振りは涙ぐましきものありしが、歳月の經過するに從ひ、其情熱は段々薄らぎたる感あり、殊に村葬に際して御英靈の通過する通筋すら、弔旗を揭揚せざるを往々見受くるあり、實に無關心も甚太敷と云ふべし、歎かはしき極みなり、何卒我敬愛する村民よ、日本從來の一時的興奮に終らぬ樣勉められん事を切望して止まぬ次第であります。是に聖戰四年の新年を迎ふるに當り所感の一端を述べて新年を壽ぐ。

就任の御挨拶

熊谷和志夫

皇紀二千六百年の新春を迎ふるに當り謹みて　聖壽の萬歳と　皇室の彌榮を壽ぎ奉り國運隆昌を祝慶し併せて新東亞建設の爲聖戰に御奮鬪されて居る皇軍將士の武勳に對し謹みて感謝の意を表すと共に武運長久を祈念致します。

聖戰下第四年の新春、此二千六百年の意義深き長期建設の秋我等は擧國一致未曾有の國難に對し奮起せねばなりません。皇軍の偉力により行く處敵無き戰果を收めて居る現狀東亞の新秩序の曙光は一歩一歩と進められて居ります。

然し此の事變の終結は前途遼遠である。長期建設我等は打て一丸となつて大東亞建設の爲邁進せねばなりません。

此の建設の爲め尊き犧牲となりたる勇士の英靈に對し謹んで我等は唯々感謝を捧げ其瞑福を祈る次第であります。

鄉土に在る我等銃後青年は此重大時局を一層認識致し以て銃後使命の重大なる事を各人が自覺し至誠報國堅忍特久飽く迄銃後の護りに完璧を期し延ては東洋永遠の平和確立の爲め又新東亞秩序建設の爲め銃後を護るべく邁進致すべく決意を更に强固ならしめ超非常時國家總力戰に奮勵し以て重大使命目的達成の爲遂行すべき努力が肝要なる事を痛感する次第です。

斯かる重大時局に際して銃後を負つて立つ青年の任務は愈々重加されて居ります。

此の時に當り不肖淺學非才無智なる私が前委員長木下源吾君應召に付き其の後任として諸賢の推薦により光輝ある竜丘青年會委員長の重責を汚すことになりました。

御挨拶

今村美那

元より無智にて其の目的達成に不安を拘くものでありますが然し此の上は全能を發輝し以て目的達成の爲め邁進する覺悟であります。

願はくは村民各位の御指導と又各種團体の絶大なる御協力を御願致して、一言以て就任の御挨拶と致す次第であります。

聖戰下に迎へられた光輝ある紀元二千六百年の新春を謹しみて御祝ひ申し上ます。事多かりし昭和十四年度も幾多の足跡を殘しこゝに希望も新たなる昭和十五年度の第一歩を踏み出すに當りまして一言就任の御挨拶を述べさして頂きます。光輝ある歴史を持つ當竜丘女子青年會も創立以來世の進歩と共にこゝに星霜第三十年を迎へる事の出來ましたのは一重に賛助員並びに皆々樣の多大な御援助と先輩御姉樣方の御努力の賜と深く〳〵感謝致す者で御座居ます。この度は計らずも會員皆々樣の御推選によりまして當竜丘女子青年會々長の重席を汚させて頂く事になりました。元より薄學非才な亦經驗なき誠にいたらない者で御座居まして此の重大任務を皆樣の御期待に添ふ樣果し得るや否やと非常に心痛致して居る次第で御座居ます。唯先輩諸姉方々の殘された幾多の尊い御教訓と會員皆々樣の御後援と理解ある諸先生又村内の皆樣の御援助と御鞭韃を唯一の賴みと致しまして微力ながら出來得る限りを致す考へで御座居ます申し上げるまでもなく日支事變も第四年を迎へ内外一層多事多難の時第一線に御活躍なされる皇軍の皆樣御勞苦は固より銃後私共の任務も益々加重される事と思ひます。

此の時に當り私共會員一同協力一致を致し銃後の完璧を期し度いと存じます。何卒村内の皆樣の御指導と御鞭韃の程を切に御願ひ致します。先は年頭に當り時報を通じて御願ひ旁々御挨拶の言葉と致します。

▼—鐵道運賃の割引—▲

一、陸軍病院入院中の軍人見舞の爲め其の家族出向の場合

二、今次事變關係の戰傷痍軍人旅行をなす場合

前記の場には省線五割引証を交付せらるべきにつき御承知下さい。

旅行をなさんとする時は豫定出發日の一週間程以前に役場へ申出を願ひます。役場に於ては前記の申出により更に松本聯隊區司令部へ願出の上交付を受けて本人へ送付します。

雙刄劍

▲皇紀二千六〇〇年新東亞建設の光輝ある新春を迎へて

▲謹みて
聖壽の無窮と皇國の
彌榮を祝壽し奉る

●

▲征野遙かに第一線に立つ鄉土應召將兵諸兄の赫々たる武勳を偲んで勞苦に感謝

▲併せて武運益々長久の程祈念致し、尚護國英靈の冥福を祈り奉る

●

▲蘆構橋より四年目
丘の時報生れて十年

▲柳條構より十年目
橿原より二六〇〇年

●

▲怒濤の如き軍歌の合唱
譜に聖戰下の俺が村新
入營颯爽と壯途につく

▲元氣で頑張れ銃後は固
ひぞ、あゝ!! 譽れは
高し日本男子の首途

▲舊臘二十八日師走の
風の慌しい中に
木下文男君の英靈歸る

●

▲正月も外にサイレン
一聲に丘の乙女が
糸を繰り出す

（波良）

年頭の辭

清水眞吾

聖戰既に三年、戰勝慶祝の歡呼につゞく建設躍進の前途、いよ／＼多幸多望なるべき昭和十五年を迎へて赫々たる大稜威のもとに、生を享くる一億臣民が無限の感激を新にせざるを得ない次第である。

今や日支國を擧げて戰ひつゝも歐洲戰亂の勃發と、新支那中央政權の擡頭とは客觀的には日支事變に一轉機を劃しつゝある武力戰中心の狀態より政治、經濟、思想の激甚なる爭鬪へと移行しつゝあるのである。即ち今次事變に內在する本質の複雜性は愈ゝ其の深刻の度を增大しつゝ、文化戰的形態を多分に含めて建設化し、長期化して來たのである從つて吾等は益々不退轉の決意を堅くし、光輝ある皇軍の武勳の上に更に異常の勇斷をもつて文化戰の戰士としての切業を遂ぐべきであつて、物と金と人との欲乏が國民の身邊に迫るとき、歐米的唯物巧利主義の風潮を捨て皇道の大義に一億一心たらしむべき精神的指導の重要性が益々必要になつて來たのである。

國際情勢彌々急迫し、國歩益々艱難を加へんとする時局の眞相に對する認識を謬らず、國民生活の不如意より來る國民思想の動搖を防ぎ今次聖戰有終の戰果を收め、興亞大業に獻せんことを相俱に誓ふ。

爰に皇紀二千六百年の光輝ある新春を迎へ、肇國の精神を憶ひ恭しく皇恩を拜し、敬神崇祖の念を喚起す。外に轉戰する皇軍將士も內に銃後の生業に勤めしむ國民も、至純なる日本心に皈一して報本反始の誠を捧げ謹みて聖壽の萬歲を祈る。

在滿二ヶ月半を顧みて

波矢志生

黑台黑台我々の希望を戴せた列車は七月四日午前九時黑台ホームにすべり込んだ。

長途の旅のつかれも忘れて我々若者は一齊に飛び下りた。始めて踏みしめる大陸の土、滿洲に憧れて來た我々の氣持此の時の皆の顏はいまだに忘れる事の出來得ぬ顏で有つた大陸の太陽は我々頭上より照りつける。

山野の草木は我々の來滿を喜び迎へて來れるかの如くに見えた。出發を前に內原にて鍛へられた精神で此の期間に過ごすのだと言ふ決心も付いた下車を終りて黑台驛の前の草原に整列する、迎へに來て居て來れた移民團の方々に挨拶をしてから重きリュックサックを下ろして休む。

見る物聞く物皆珍らしい物ばかりだ。トボケ顏をした滿人も珍らしさに恐る恐る近ずいて來る、我々も面白半分に話しかけて見るが言葉が全々判らない。

間も無く整列する此處にて長野中隊は三ケ小隊に別れる事と成つた、此の時程淋みしさを深く感じた事はなかつた。之も奉仕の關係上で仕方無く別れる、自分は第三小隊と成つた、長野中隊は第五次の信濃村へ入るのだ。第一小隊は昨年入植せし第七區へ、二小隊は昭和十二年入植の第二區へ、我々三小隊は十二年入植の第三區へ、此の三區は下伊那の松川以南の人々が集まり作つた所で有る。

驛前にて互に暫しの別れを告げて我々より先に先遣隊として來て居た大學生に導引かれて自分等の宿舍の有る所へ向ふ。

此の時の別れの言葉の面白さ『死んでも生水を呑むな』『生の瓜は喰ふな』等と淋しい中にも愉快な言葉を交して目的地へ向つた。

燦燦と降りそゝぐ日光の下を五〆目程有るリュックサックを背負つて歩いた。

行けども行けども目的地たる宿舍は見えぬ。皆之は廣い物だ、之は廣い所だと言つて驚かぬ物は誰一人としてなかつた。此の時我々は炎天下に於いて活躍する兵隊さんが如何に苦勞するかと言ふ事を身を持つて休驗する事が出來た。

重きリュックサックを背負つて進む事二時間、やうやく我等の宿舍で有ると云ふ所に付いた、全員皆汗でびしよぬれだ。

偖て此の如くに骨を折り苦しいめをして到着した宿舍と云へば？　見るからにもあはれな建物で有り、皆の顏色は又しても一變した。變るのも無理は無い、表には草が生ひ繁り豚小屋の倒れかゝりし物等が舍の出入口の所に有る。

中に一足踏み込めば異樣な臭氣が鼻をつく、屋根は草ぶきで有り古い爲に草が生へて居る。床と云へば土より約五寸位に上つた處へ板を張り、其の上に高粱で作りしアンペラが敷いて有るのみだ。此の樣な舍が南北に二つ有り之に別れて入る事と成る。

此所は入植當時の信濃村移民團の本部で有つたそうだ。之を見ても入植當時の移民團の苦勞と云ふ物が良く判つた。

我々の入る舍以外にも小屋は幾つも有つた、皆雨のもうる樣な所ばかりだ。

長野中隊の中隊本部も此處に置く事に成つた。

三區の區長の挨拶が有り之が終り皆異樣な臭氣の鼻をつく舍の中に致し方無く入り旅裝を解き身の廻りの物を整理する、整理を終り互に顏を見合せて語る。誰も余り良い顏はして居ない。

此の時、我が國家が如何に立派な地位に有るかと云ふ事を心より知る事が出來た。

文化の發達せし日本に生れ、此の國にて平凡なる人生を送つてしまへば、我が國の文化が如何に發達して居るか、又皇室の御稜威が如何に海外に輝いて居るかと云ふ事を心より知る事無して終つてしまうかくの如き事は祖國を遠くはなれて始めて明らかと成り、親の有難さは鄕里を去つて始めて知る事が出來る。

各ゝ感じ來る時に我々の苦しみも又淋めしさも遠い所へ消えて行つてしまい。唯我が國家の弟たる滿洲國建設の爲に否、東洋永遠の平和の爲めに此の奉仕期間を最も價値有る樣に過ごさねば成らぬと言ふ信念が心の奧深くより泉の如くに沸いて來た。

滿洲は滿洲國として一國こそ名乘つては居るが實に低い地位に有るのだ、之を手に取り助け育てゝ行く國はどこでありませう、言ふ迄も無く我が國であります。我が國無くしてどこに有りませう。

間もなく移民團の奧さん方の手に據つて晝食の用意が出來た。

飯を喰べる臺は一部屋に二ケづゝ用意されて居た、大陸にて始めて味はう飯、家で喰つて居た飯のにほいとは違つて大陸臭い、櫃にて運ばれし飯を見ればヒエが仲々入つて居る。櫃と云つても四角な箱だ汁を入れて有る物はバケツ此の外に湯を入れて有る小バケツ、汁のシャクシは金で出來た五合シャアーク、實に大陸的に出來て居ると思つた。食器は內原にて渡された大きな食器、之に食事當番二名が盛り付ける。

盛り付が終ると着席の號令で各自の席に付く、そして御魂鎭めを行ふ、之は御飯の前に我々が御飯をたべられる有難さを天地の神々に感謝するのである。

御魂鎭を終り左記の綱領を奉唱して『戴きます』でたべるのである。

綱領

我等勤勞報國隊ハ
皇祖ノ神勅ヲ奉シ
協心戮力身ヲ挺シテ興亞ノ
天業ニ追進シ神明ニ誓ッテ
天皇陛下ノ大御心ニ副ヒ
奉ラムコトヲ期ス

之が我々勤勞報國隊の綱領で有ります。

余り長く成りました以下は次號へ致します。

役場便り

昭和十五年一月十三日
竜丘村役場

入學兒童保護者御中

就學届出に關する件

左記出生の者本年四月一日より就學致可に付本月末日までに保護者より就學届出相成度及通知候也

追而就學兒童にて病氣其他正當の事由にて猶豫又は免除を出願せんとするものは本月廿八日までに醫師診斷書相添申出づべし

記

自昭和八年四月二日〜至昭和九年四月一日　生

◆◆◆

○○方面に奮戰中の中島誠君今回の事變に依る戰歿英靈に對し金拾圓香花料として贈呈方村役場へ申出たり

◆◆◆

寄留地身体檢査許可願の件

他府縣郡外の者にて本年本村に於て徵兵檢査を相受けたき者は此旨本月末日までに當役場へ出願右之樣及注意候也

献金

一金貳拾圓也　今村諦全殿
銃後奉公會へ
一金參拾圓也　中平省吾殿
銃後奉公會へ
一金貳拾圓也　中平省吾殿
軍人分會へ
一金拾圓也　中平省吾殿
國防婦人會へ

◇納税通報

一月の納税は左記の通り

國税
田租　第一期
宅地租　第二期
所得税　第三期

縣税
營業税及雜種税　後期
所得税附加税　後期

右は一月二十五日限り徵收のこと

就任の辭

皇紀二六〇〇年躍進日本の新春を迎へ、皇室の彌榮を壽ぎ奉ると共に、皇軍勇士の武運長久を御祈り申上ます。

過去一ケ年を回顧すれば多事多端に迎へ、多事多端に送りし戰時下十四年度も吾等は果してそこに何等の成果を收め得たか、さもあらば我々は其の最善を盡した事でありましやう。

地球は流轉一變、此に戰捷の昭和十五年前途多事多端に輝き興亞の新春の御代を迎へ、新なる生命の雄叫、民族的にも團体的にも個人的にもより以上、我等の身の上に課せられし任務、使命は重且大なる時、新春の明朗の其の中にも緊張した精神が眞劍な姿で凡てに施與するの考へで御座います。

益々發展の途上に有る時報も顧みれば今を去る十年前、村民各位の御理解と先輩諸兄の努力に依り青年ニュースが村內報導機關紙、時報となりてより號を重ねる事十年!!

其の間先輩の努力に依り堅實な歩みを歩一歩と續け其の內容、外觀に於ても村時報として周知の如く評價され發展進歩し、今日に至つたのであります。

茲に十年目の意義深き年を迎へ村內各位の期待に添ふべく時報の使命重大なる時不肖私が本年度の時報編纂部の重任に推薦され、其の重職に就任する事に成りましたが自分は元より淺學非才なる者なるが故に、其の重任遂行は疑問に價する者に御座居ます到底其の滿足は望め得ないが然し重大時局を背負ふ處の若き農村青年として全能力を發揮し、凡てに注ぎ燃えんとする努力の二字を加へ部員一同と一致團結、一心同体と成り時報のより良き發展向上、威信高揚の爲に時報の持つべき使命遂行の爲に努力致すべくの考へで御座居ます。

願わくば村民各位並に會員諸賢の贊助と、絕大なる御指導と御鞭韃の程を幾重にも御願致し、無事重任を遂行出來得る樣就任に當り切に御願ひ申上げる次第に御座居ます

（波良）

謹賀新年

皇紀二六〇〇年躍進日本の新春を迎ふるに際し、聖壽の無窮を祝し奉ると共に、嚴寒の曠野に或は兵營に明朗大亞細亞新興の重大使命を双肩に擔いて寧日なき御活動を續けられ赫々たる武勳を修めつゝある、鄕土出身勇士の皆樣に對し我々會員一同心からなる感謝の念を捧げ候

時局は益々重大化し多事多難を豫想される昭和第十五年度に入り、皇軍勇士各位の御活動に期待する處甚だ大なる時、御身体の攝養に留意され、一層の御奮鬪賜り度く我々一同皆々樣の武運長久を神かけて御祈申上候

降而我等兩青年會共に益々一致團結國家總力戰の使命遂行の爲努力致居候間御放念下度候

先は暑儀乍ら紙上を通して年頭の御挨拶に換へ申候

竜丘青年會
竜丘女子青年會

皇軍將兵各位樣

戰時下に於ける 丘の男女青年會

▼青年會職制決定▲

事變下第四年目御稜威輝く紀元二千六百年に活躍する青年會幹部左の如く決定さる。

委員長　熊谷和志男
委員長代理　原　定治
兼議事係　原　定治
會計係　前島　竜丙
記錄係　久保田　勇
族手　桐生　正
教育部長　澤柳　茂雄
体育部長　下平　操
圖書部長　原　三喜雄
編纂部長　原　行雄

……◇……

◎各支會長◎

駄科支會　澤柳　茂雄
長野原支會　吉川　通夫
時又支會　塩澤光次郎
上川路支會　田中　啓一
桐林支會　前島　竜丙

昭和十五年度 竜丘女子青年會 役員メンバー

竜丘女子會長　今村　美那
副會長　記錄　高島　妙子
會計長　伊原　清子
副　下井田清美
教育部長　木下　綾子
副　吉川　よね
体育部長　中島とみゑ
副　原　きみ
圖書部長　下平　律
副　原　久惠
編纂部長　山田　房江
副　小林　榮子
族手　伊原　清子
副　原　キミ
木下　欣子
久保田　靜
下平　秀子
木下　芳子

各支會長
駄科　吉川　よね
時又　山田　房江
桐林　高島　妙子
上川路　木下　綾子
長野原　下井田清美

体育部長　久保田精男（三穗村）

◎郡青代議員
熊谷和志男
原　定治

◎郡青龍峡支部
常任委員
熊谷和志男
原　定治
代議員
前島竜丙　下平　操
澤柳茂雄　原　行雄

龍峡青年會

係員顏觸れきまる

郡聯合青年團龍峡支部青年團に於ては去る一月十二日午后一時より竜丘村役場第二會議室に於て新舊代議員會を開催し前年度係員より事業並に決算報告ありて後本年度役員の選出が行はれた。竜丘、龍江川路、下久堅、上久堅、千代三穗の七ケ村を以て結成されたる龍峡青年團常任委員長に昨年に引續き林昌平君を推立て〻重大時局二千六百年を迎へ一致協力銃後青年運動に拍車を掛ける意氣込である。

尙本年度の執行部は左の如し

常任委員長　林　昌平（龍江村）
副委員長　前澤　利雄（下久堅村）
會計部長　熊谷和志夫（竜丘村）
記錄部長　關島　四郎（川路村）
教育部長　藤本　吉一（千代村）

〈組合便り〉

×

一月五日糸價好調の狀勢に丘の組合製糸まず開場

仝日午后五時產業報國愛友會の新年總會開催飯田署より瀧澤警部補、白鳥刑事、小林天龍峡派出所長臨席、役員全員出席時局下國際貸借の上に貢献ある生糸生產の勤勞報國を誓つた。

×

生糸組合に昭和八年以來勤續して居た書記折金清君は長野縣購買販賣利用組合に榮轉、仝組合を退職した。

×

一月十一日午后二時組合階上に養鷄家懇談會開催、逼迫せる飼料不足に對處すべき研究を爲した。

臨席者大久保技師

×

本年初の濱糸出荷は一月十四日、糸價一上一下の波瀾時期に春の狀勢如何に期待のうちに發送された。

×

★入營兵見送 御禮

小生等今回入營、入團出發に際しては年頭早々、御寒い中且又早朝より、多數熱誠なる御見送りの榮に浴し感謝感激の至に堪へず厚く御禮申上ます。

國家重大時局に當り國家の干城と撰ばれ、君國の爲に御奉公出來得ますことは男子の本懷之に過るは無之欣快とする次第であります。

入營後は軍規軍律の下に專心奮鬪努力し御聲援に報ゆる覺悟で御座居ます。今後共一層の御指導御鞭韃の程御願ひ致します。

寒氣益々募る折柄村民各位の御自愛專一の程御祈申し上まして先ずは紙上を通じて御禮旁々入營入團御報知申上ます

昭和十五年一月十日　入營兵一同

村民各位

希望圖書募集

竜丘村立圖書館

今般本年度第一回圖書選擇に際し廣く愛讀者各位の希望圖書を募集致しますから左記要項御記入の上御應募下され度竜丘圖書館のより一層の內容充實發展の爲御協力下さる樣御願申上ます。

尙希望圖書は出來るだけ應募者の意に添ひたいと思つて居ます。

記

一、用紙　隨意
二、記入事項　圖書名、著者名、定價、發行所、內容の概要
（應募者の氏名）
三、届先　圖書館投書箱、男女青年會圖書部員、郵送の場合は桐林原三喜雄宛
四、締切　二月十日

卍　卍

時報編纂室から

時報發刊されて星霜十年目、御稜威輝く皇紀二千六百年を迎へました。此の間村民各位からは絶大なる御支援を賜はり竜丘時報として皆々樣に愛される事が出來ました。

今後も何分宜敷く御聲援の程願上げます。

本年も毎月十五日發行に付き十日迄に編纂部係員へ原稿お屆け願ひます。

左記に各部落別係員記します

駄科　熊谷　房隆
大平　啓司
牧島　豊
大平　晴司
吉川　忠則
長野原　今村　長穗
下井田恒茂
時又　塩澤光次郎
加藤新八郎
桐林　原　行雄
下平　水城
原　三喜雄
前島　竜丙
原　定治
中島　角治
林　化
上川路　木下　幸夫
金子　久男
笹岡　健三

尙原稿用紙其他お判りにならない点がありましたならば右係員にお聞き下さい。

お斷り

前號記事「婦人各位に告ぐ」

昨年度終刊號時報紙上、第四面の記事に「婦人各位に告ぐ」と題して發表されし記事に就て、時報發行直後記事の內容の眞相が全々無根據なりし事が判明なし、當記事に依りて直接、又間接にお迷惑をお掛けせし婦人の皆樣には誠に申譯なく、紙上より改めてお斷り方々、お詫び申上る次第であります。

（編纂部）

◎節米の一方法に……唐もろこしの混食

米が足りないところから七分搗きとなり雜穀混食の奬勵が叫ばれてゐるが、この雜穀の中に玉蜀黍が登場して來た。玉蜀黍は、これまでところによつては粒のまゝで用ひられゐたが、しかし粒のまゝでは普通の家庭では用ひにくい。そこでこれをこまかい粒粉にして米にまぜて炊いたり、或は粉にして、メリケン粉に代用させようといふのが新らしい狙ひどころである。

＝米＝とまぜて御飯にする時に玉蜀黍獨得の黃色が御飯の中に卵の黃味をまぜた樣で味も甘くなり、子供の口にも合ふ、その上米の場合よりも二割も炊きぶえがする。粉の方は天ぷらのころもに用ひても油ぎれが非常によく大變に油の得にもなる。また榮養の點では麥に劣らないといはれてゐる。農家などでは牛や馬鷄の飼料とする他に混合食として用ひられ非常に經濟的でもある。これは都會ではまだ市場にこそは出ないが、神戸の方のある會社では大量生產を計劃し一般家庭を目標に賣出すことになつてゐる。値段は現在の麥と餘り變りはないから麥の使用量が增加するに就て麥の生產額が問題となつてゐる時この新らしい混合用雜穀が出て來たとは家庭經濟、國家經濟からも注目に値する

正しい檢眼は
是非共メガネ專門醫へ
馬場町　林眼鏡店

ラヂオの修理と新設は
放送局ラヂオ技術受講者の
各社特約（レコード）　二百目樂器店
電話十九番

當店へ
肉食は健康の母
優良●牛、馬、豚肉の御用は
是非勉强な
細井亭へ
電話二四

謹賀新年
銃後の征服は活力にあり
活力の源●菓子は若木屋から
良品安價な　若木屋菓子店
電話十四番

謹賀新年
銃後の皆樣
御衣類のクリーニングの
御用は是非當店で
大見クリーニング店

祝
皇紀二千六百年
銃後の御家庭は第一御時計の正確から
販賣、修繕は安くて正確な
古時計高價買入　伊藤時計店へ

圖書館だより

進んで利用＝吾等の圖書館!!

戰捷新年

希望に滿てる新春を迎へ謹んで御祝辭を申上ます。

聖戰下第四年の新春初頭に於て支那中央政權の誕生は目睫に迫り、興亞大業を本格的建設工作に移されんとして居ます。

時あたかも皇紀二千六百年、此の記念すべき年に於て吾が大和民族が東亞の銘主としての礎を築き得る事は誠に喜びに堪えないものであります。

然しながら今尙異鄕の大陸に害敵と戰ふ將兵の勞苦を偲べば、實に晏如たるを得ないのであります。亦彼の地に委ねたる尊き血潮を思へば吾々銃後國民たるもの如何にして之に報ゆべきか、東亞の新秩序建設の尊き使命達成の爲には吾人の最大の努力を要する時であります。既に國家を擧げて各方面の强化が叫ばれて居る時、圖書館の使命も所謂文化的、平和的な施設や單なる書庫に止まるに非ずして進んで社會教育機關としての大なる活動を要求せられて居るのであります。事變以來政府刊行物が驚くべき增加を示したのも印刷物によつて國民を覺醒せしめ、之を指導せんとする意に外ならないのであります。從つて時局と共に益々圖書館の使命が重且大となりつゝあるのであります。

此の意味に於て吾が竜丘圖書館も小規模ながらも此の重大使命にそふべく、係員一同微力を盡して居る次第であります。村民各位には吾が圖書館が村の圖書館として多少なりとも、此の使命を果し得る樣御指導御鞭韃下され且亦御利用下されん事を御願ひ申上ます。

左に本年度開館日を御案內申上ます。

一、團体貸出

イ、定日貸出　一、二、三、四、五、十、十一月毎月六日夜

ロ、特別貸出　七月一日農休み八月十二日盆休み夜

二、個人貸出

イ、晝間貸出（女子部担當）

○平日貸出　一、二、三、十月毎月一日十六日午前中

四月十一月各月十六日十二月一日　午前中

○祭、休日、貸出

二月十一日　紀元節

三月廿一日　春季皇靈祭

四月三日　神武天皇祭

四月廿九日　天長節

七月一日　農休み

七月十五日　祇園

八月十六日　盆休み

十月十一日　記念運動會

十一月三日　明治節

以上午前中

ロ、夜間貸出（男子部担當）

○農閑期　一、二、三、四、十一一月各月五、十、十五、廿、廿五、卅日夜但二月は廿八日　十二月五日十日

○農繁期　五月十五日、卅日　六月廿日

七月、八月　各月十日

九月　十日、卅日

年頭雜感

田子作

悠久二千六百年

光輝ある昭和十五年聖戰下第四年の新春を迎へるに當り、肇國の御聖業と今事變に東洋平和確立のため、護國の柱となられし皇軍將士の英靈に對し、衷心感謝の意を表する次第であります。

支那四百余洲到る所に錦旗は飜へり宣撫工作、治安維持も着々と進み、又汪兆銘を中心とする所の新政權の樹立を近きに見るは之一重に御稜威のしからしむる所と、又皇軍將士の忠勇義烈に外ならないと思ひます。

又一度眼を歐洲に向ければ、暗雲は全歐を覆いて低迷し武力戰に、經濟戰に又宣傳戰に火花を散して居るの時、獨ソ協定の成立により我日本は防共樞軸より開放されたとは云へ、對岸の火災視を許さぬであろう。今日國內はどうであるか、物資の統制節約に又生產擴充に大童なるの狀態、この時に當り我々農村も米麥に又蠶作に其の增產を期して、益々國力の充實に勉め國防の第一線に立れて居る將士に後顧の憂い無からしめん樣努力せねばならぬ。

斯如く有史以來、未曾有の神の下し給へる一大試練に遭遇したる時、我等若き青年はいかに處すべきか。

徒らに妄想に捕らはれず各自の本分を全とうせねばならぬ心身共に優秀人物はどんゝ〳〵と應召せられ國內に於ける生產能力は減退あるのみだ。

銃後にある我等は微力乍らも打つて一丸となり、聖戰の目的達成の爲努力せねばならぬ諸物價の高騰に又農村に欠くべからざる肥料の入手難にとあらゆる困苦と戰つて行くこそ本當に時局を認識した國家に忠良の民と云へよう。

希はくば農村に住む若き青年よ！記念すべき二千六百年こそ有意義に乘り切ろうではないか。

櫃原神宮饌米奉獻

軍人分會

大日本帝國在鄕軍人會にては二千六百年奉祝事業として櫃原神宮へ神饌米奉獻を計畫準備中の處、之が準備完了各遞送コースに從つて遞送中たるが當竜丘分會にても去る十五日午前十一時より之が奉獻式を擧行し、大下條、川路並千代、龍江方面のと合し全會員奉送裡に次分會松尾村分會へ遞送を爲したり。

現役兵出發通報

二月一日〇〇隊、入隊の小林太郎、琢平代三兩君は一月二十八日出發の豫定

故陸軍歩兵上等兵

杉本政志君

十四年十二月卅一日〇〇にて戰病死す、謹みて哀悼の意を表す。

※男女※作※法※編※

志雄座和

正座は端正にして威容あるを要す、其の作法は右足の拇指上に重ね、腹部を張り臂を過度に張らずして兩手を膝の上に置くべし。

起立するには兩手を膝の上に置き、足の爪先を立て下座の足より起つべし。

室內を歩行するには直立して頭頸を正しく、兩肩を平かにし兩手を和らかに腿の上に附け、凡そ直面一丈內に眼を付け一足を一息に歩むべし。敷居疊の接目や踏み物を跨ぎ若しくは大足に歩み又足音高き等皆非禮なり、廻り返るとき通常は右へ廻るを順とし左へ廻るを逆とすれども貴人の位置にありて一定し難く順逆には泥すべからず。

正座するにも行進するにも必らず前面を正視し、眼球を上下左右に轉じ、又家の隅々などキョロ〳〵と見廻す等の事あるべからず、又人の書簡を認め或は披見し若しくは飲食せるときは勉めて他方に着眼の事、着座するには上座の足を引きて後正座の姿勢を取るべし。座禮は上輩に對しては左右の手の指を合せ掌を疊の上につき鼻柱の指に觸るゝ程に頭を下ぐべし、之を合手禮といふ。

同輩に對しては兩手を雙べて疊の上につき頭を良き程に下ぐべし之を雙手禮といふ。

下輩に對しては兩手を四、五寸程隔てゝ指頭を疊につき僅かに頭を下ぐべし、之を指建禮と云ひ總て三息を以て行ふ

注意『手をつくには膝より餘り遠からず近からず遠からぬ所なるべし、遠ければ臂の踵より離るゝことあり、近ければ肩いかりて見苦し又肘の張るは無禮なると知るべし』

退座するには成るべく上座若しくは他人の方に我が背を向けざる樣引退きて起立すべし

（次號へ）

謹賀新年

恭賀新年

日章旗ひらめく大陸に感激に滿てる肇國二千六百年の新春を迎へ、天壤無窮皇運の彌榮を壽ぎ奉る次第であります。

愈ゝ聖戰四ケ年戰域も益々擴大し我等の責任いやかみ上に重く志氣益々盛にして嚴寒烈風物ともせず、一意戰捷の獲得に無事努力致し居ります。

然し乍ら元氣にて及ばず乍ら御奉公大過なく現在に到る事の出來ましたのも、村內各位の御熱誠こめたる御後援の賜物と深く感謝する次第であります。

度々の懷しき各位の御便りに依り大畧村の樣子も分りうれしく思ひます。誠に村も統制に增產に幾多の困難を乘越へつゝ銃後の守りを全うせらるゝを思へば只々感謝の外に何物もなく一種不可思議なる力に後より押るゝ感じがし思はず武者震ひし、今度こそと新た覺悟に身を引き緊め何時も次に來る物を待期してゐます

戰鬪間の一死報國は申すに及ばず常に皆樣の御苦勞を偲びつゝ寸暇も訓練を積み武技を練り事變の大理想實現するべく協同一致奮鬪し居りますから御安心下さい。

先づは亂筆を持つて新らしき年を迎へ簡單に御挨拶迄申上げます。終りに戰歿勇士の英靈に對し恭しく哀悼の意を表し御遺族の方々に對し御悔ひ申上げる共に竜丘村の發展を御祈り申し上げます。　敬具

一月一日

竜丘村各位樣

出征現役兵一同

外村民一同樣

※編輯後記※

戰勝祝賀の皇紀二六〇〇年の光輝あるそして意義深い新春を玆に迎へました。今や我が國は對外的にもそして又國內的にも益々多事多難の超非常時局に遭遇いたしました。

我等國民はこの秋に當り皇威の宣揚とそして國家の繁榮とを衷心より壽ぎ奉る次第であります。

× ×

一號發刊に當りましては村長樣初め村民各位熱誠の原稿編輯室に送られまして有が度う御座居ました。

委員長樣、部員諸兄と一心となり漸く初編輯を終へました初心の事とて內容充實編輯に滿足を期し得ない事を幾重にも御詫びいたします。

尙次號は慰問號發行致しますから慰問文和歌、句、詩其他慰問に適した文をどし〳〵御投稿下さい。（波良）

家庭は生活の慰安所
清楚な住居は襖より……
襖新調張替と掛物の調製に　表具師　尙隆堂

賀正
銃後の活力は
先づ菓子から
良品安價なサービス店
藤屋菓子店

謹賀新年
竜丘郵便局
今村篤七　中山きく子　宮澤九藏
伊原重子　奥村四郎一　熊谷留吉
伊原利一　中島敏治　代田百代
原光一　小林モト　塩澤銀一
波田野ひろ　吉田民

明けまして本年も相變らずに
特製さくらもち　うぐひすもち　の御用は
奴餅へ

賀正
洋品胖物足袋類の御用は!!
相變らず勉强な　田中屋洋品店へ